* 1. **Your title here （カッコ内に題目を日本語で記載）**

A. Author, B. Author, C. Author[[1]](#footnote-1) （カッコ内に著者名を日本語で記載）

企業の研究者を対象とするUTTAC施設の成果公開利用（産業課題あるいは産学連携課題）では、UTTACアニュアルレポートによる年一回の成果報告が必要です。その場合、UTTAC関連の技術報告（主に技術職員による）と同じくUTTACアニュアルレポートの日本語原稿を受け付けますので、このテンプレートにしたがって２ページ以内の原稿を作成してください。文中での文献の引用は [1]、あるいは[2-4]のように表記してください。文献の英語での書き方は本ページの文献(例)をご覧ください。なお、学術課題については学内、学外利用者ともに従来どおり英語原稿のみ受け付けます。

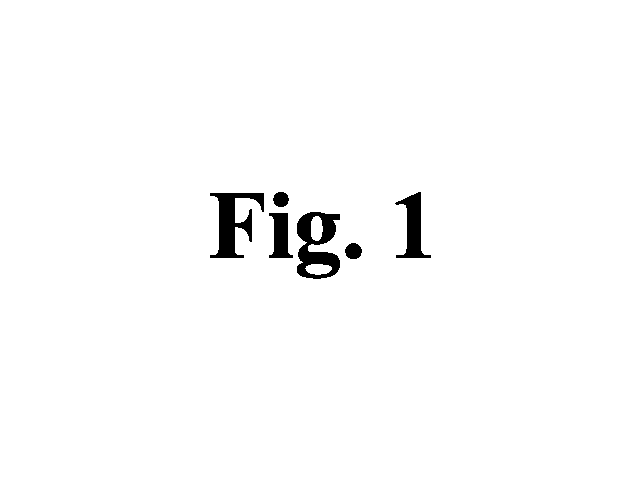
図の横に本文を記述する場合は、原則として本記載例のように図を右側に配置してください。

Fig. 1. 図の説明文は10.5または10ポイントのサイズの文字により15ポイントの行間隔で記載してください。

#### 文献（例）

[1] A. Author et al., UTTAC Annual Report 2019, UTTAC-89 (2020) 999.

[2] B. Author et al., Nucl. Instr. Meth. Phys. Res. B 999 (2018) 888.

[3] IBANDL (Ion Beam Analysis Nuclear Data Library). https://www-nds.iaea.org/exfor/ibandl.htm

[4] C. Author and D. Author, in *Beam Interaction with Materials and Atoms*, edited by G. Editor and H. Editor (Springer, Berlin, 1999), p. 555.

1. 東京大学 [↑](#footnote-ref-1)